

熊本博物館

熊本城の北西に位置するこの博物館は、2018年に全面改装を終えてリニューアルオープンしました。1階は熊本市の歴史と文化、2階は熊本県の自然史を扱い、地下にはプラネタリウムがあり、これらをまとめて1つの博物館になっています。館内はアクセスしやすいように設計されており、スマートフォンアプリで利用できる4カ国語の音声ガイドも用意されています。

館内に入って最初に展示されているのは、約2世紀半にわたって熊本を支配した細川家が江戸（現在の東京）から帰郷する際に乗船した「波奈之丸」の船室です。1838年に建造されたこの船は、2階建ての豪華な作りで、畳の部屋や漆塗りの木工細工、精巧な建具などが施されています。博物館の2階には窓があり、上から波奈之丸の船室を眺めることができます。

時代を通しての生活

その他の展示品では、旧石器時代から武士の時代、そして20世紀半ばに至るまで、熊本の生活がどのようなものであったかを見ることができます。中央の廊下ではその概要を紹介し、脇の部屋では特定のテーマをさらに深く掘り下げて説明しています。明治時代（1868–1912）の町家や昭和中期（1960年代）の一般住宅が再現されており、後者では戦後日本の経済発展を牽引することになった家電製品の初期の事例が展示されています。1階の片隅が「秘密の廊下」になっており、窓からは倉庫内の約4万2000点の収蔵品を見ることができます。中には目録化されていないものもあります。

2階は自然史が中心です。熊本市の南東に位置する江津湖の湖底のジオラマなどが見どころとなっています。湖面下の魚視点の展示品や外来生物の展示も興味深いです。また、金峰山に生息する動物の剥製がその糞とともに展示されていますが、これは金峰山に生息する動物の手がかりを見つける方法を子どもたちに説明することを意図しています。

ステゴダンの足跡の中で

上の階には、より伝統的な自然史博物館があり、哺乳類、鳥類、ヘビ、魚、菌類など、様々な種類の動物や植物が展示されています。2階の主な展示品は、中国で発掘された、象に似たステゴダンの骨格の化石や、熊本で発掘されたステゴダンの顎の一部です。総合的な地質学のコーナーでは、触ることができる岩石のサンプルが展示されています。